

名古屋市の老人クラブに所属する高齢者の食生活調査—対象者の基本的属性
續順子*、○佐宗洋子**、中島けい子*
(* 椋山女大、** 東邦ガスKK)

目的 名古屋市では、女性企画室主催で懇話会が開かれ、名古屋市に対して提言を行ってきている。その委員として、高齢者の食生活ケヤーについての提言をした。しかし、当時名古屋市では、高齢者所帯の食生活に関する調査資料がほとんどなく、他都市の調査結果をもとに提言を行ったが、その有効性については、判断資料がなかった。そこで、実態を知り、その対策の基礎データとするため、名古屋市の高齢者の生活実態調査を行った。

方法 名古屋市民局高齢者対策課の援助により、名古屋市全市の老人クラブ代表者の集会に提案し受入れに応じた周辺部の守山区、新興住宅地の緑区および旧市街の中村区の老人クラブに所属し、集会に出席可能な高齢者を対象に質問用紙による調査を行った。老人クラブの加入年齢は60歳であるが、回答された中から65歳以上の該当者を抽出し統計処理した。調査項目は、属性、生活活動状況、健康状態、食生活意識、食生活状況、食事、食生活ケヤー、調理機器、嗜好調査の9項目。調査期間は平成6年9月～11月。

結果 1) 調査対象者属性は、男性124名(66.7%)と女性62名(33.3%)であった。年齢構成は70歳台が男女共に最も多かった。家族構成は男性は夫婦のみが最も多く女性は3世帯同居が最も多かった。住居形態は一戸建てが80%を越え、居住年数は21年以上が69%以上あった。2) 生活活動状況は、6～8時に起床、20～22時に就寝、趣味と楽しみをもち、週に1～3日外出をする。3) 健康状態は、食欲は普通にあり、まあまあ健康と思っている人が多いが、足腰や眼の弱り等をうったえ、“特になし”は少なかった。4) 飲酒・喫煙は男女差が大きく、飲酒は加齢とともに低下する。